

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーのお取り扱いについて

- ① 2022年3号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL: 03-3817-5666)にて承ります。
- ② それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記をお願いいたします。
株式会社東亜ブック 〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11
TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539



2024年4号(7-8月号)

特集

令和のお父さんのリアル 男性目線で考える父親支援

育休を取得する父親が急増し、「イクメン」という言葉が過去のものになりつつあります。父親を「支援の受け手」とするために、今、何が求められているのでしょうか。男性目線で考えるとともに、男性たちによる父親支援の取り組みを紹介します。



2024年3号(5-6月号)

特集

保険適用の議論の前に知っておきたい 出産とお金のはなし

出産費用の保険適用が議論されていますが、そもそも出産にかかるお金はどうやって決まっているかご存じですか？ 日本の出産費用のしくみと歴史から、海外の出産費用やケアシステム、助産師の働き方までを概観する特集です。



2024年2号(3-4月号)

特集

助産所でも診療所でも病院でも ここまでできる産後ケア

産後ケア事業を行う市町村は増えたものの、量と質の確保や安全管理、経営の課題が指摘されています。本特集では、「成果が出せる産後ケア」を意識して、さまざまな産後ケア実施施設から「ここまでできる!」というベストプラクティスを集めました。



2024年1号(1-2月号)

特集

データでみる「助産所のお産」 嘱託医療機関との連携で実現する安全性と継続性

21助産所と1嘱託医療機関の12年にわたる連携症例5826例を分析。助産所分娩を希望した症例の8割が、嘱託医師への移行や搬送なく母児ともに問題なく退所します。助産所のお産の現代的意義や、安全な医療のために必要なことまでも可視化した大特集。



2023年6号(11-12月号)

特集

新世代がつくるお産の場 わたしたちの助産院

2021年における助産所での出生は全体の0.5%。「そんな今だからこそ、お産のできる助産院を開業しました」という若手の開業助産師たちのロングインタビューを掲載。なぜ、どうやって開業したのか、ハードルは？ 経験談を掘り下げます。



2023年5号(9-10月号)

特集

HTLV-1 母子感染予防の 新方針

2022年11月改訂「HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル(第2版)」では、最新の研究結果に基づき、短期母乳栄養の選択肢が加わりました。同マニュアル改訂の概要を解説し、HTLV-1 キャリアの母親とその子どもへの継続支援、心理的サポートの最新情報をまとめます。

2023年 特集

- 4号(7-8月号) 産む人を中心にした帝王切開
- 3号(5-6月号) 妊娠中の体重管理と栄養
- 2号(3-4月号) チームで取り組む周産期メンタルヘルス
- 1号(1-2月号) ライフワークとして考える助産師のキャリア

2022年 特集

- 6号(11-12月号) ベテラン助産師に聞く退院までの母乳育児支援のコツ
- 5号(9-10月号) 共働き家庭のための出産準備アップデート
- 4号(7-8月号) 切れ目ない支援を実現する産前・産後の訪問看護